オタナザル・マチャクーボフ氏について

森田　稔

マチャクーボフ氏は中央アジア最大の人口を誇る国、ウズベキスタン共和国の伝統音楽の研究家として、同共和国はもちろん、国際的にも広く知られています。中世から脈々と伝承されている、中央アジア伝統音楽の歴史および楽器の研究がご専門で、ソ連時代にこの国の共通語であったロシア語の文献が多く、その他にウズベク語による著書・論文もあります。また、トルコなどで行われる国際会議には、この地域の共通語であるトルコ語で、報告や司会を行っているとも聞き及んでいます。さらに、氏はタジク語（=ペルシア語）にも通じておられます。旧ソ連圏のみならず、トルコ系・ペルシア系の言語を分かち合う広い地域で、自分たちの音楽文化の歴史を解明する指導的な学者として、位置づけることができるでしょう。

マチャクーボフ氏の十点を超える著作のなかで、ウズベク語で発表された *Огзаки ананадаги профессионал музыка асосларига кириш// Введение в основы профессиональной музыки устной традиции*（口承伝承による職業音楽の基礎入門）, Ташкент, 1983 が特筆に価します。東方の学者たちの音楽論文における、マコームの手稿譜に関する情報を、譜例付きで概説したもので、氏の研究の出発点ともなる記念すべき著作です。氏はその後も折に触れて著作を発表されていますが、次に転機となった著作が 1986 年にタシケントで出版された *Фараби об основах музыки Востока*（東方の音楽の基礎を語るファーラービー）は、思想家アブ・ナスル・ファーラービー（950 没）の東方の古典的音楽遺産に関する論文を論じたものでした。その後も氏は積極的に研究・出版活動を続けておられますが、2004 年になってウズベク語で、*Макомат*（マカームについて）という、これまでの研究の集大成ともいえる著作を出されました。そして最後に、昨年出版されたばかりで、これまでの研究を総括したともいえる概説書 *Узбекская классическая музыка, (1) Истоки и (2) Теоретические основы*（『ウズベク古典音楽、（１）起源、（２）理論的基礎』）Ташкент, 2015 を挙げておきます。

氏の研究の際立った特徴は、ウズベク語はもちろん、近隣諸民族の諸言語に通じておられる点で、中世以来の音楽書を原典で読みこなしておられることでしょう。ソ連時代に生まれ、教育を受けたので、基本言語はロシア語ですが、近隣諸民族の言語に通じることによって、中世イスラムの古典音楽に直接原典に立ち返って解明しておられる点を、特記することができます。

（宮城教育大学名誉教授）